



こんにちは

村田 けい子です

2019.5.17
No. 202

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

【新しい議会の構成】 議長に森本信明議員、副議長に榎本真弓議員

◎は委員長、○は副委員長

議会運営委員会 (正副議長+常任委員長)	6	◎田中三江議員	○村田桂子
総務経済常任委員会	6	◎今井清議員 森本信明議員 田中三江議員	○今井英昭議員 中村茂弘議員 中島健男議員
社会文教建設常任委員会	6	◎森澤文王議員 榎本真弓議員 村田桂子	○今井健児議員 瀧澤壽美雄議員 芝間教男議員
議会選出監査委員	1	瀧澤壽美雄議員	
議会だより編集委員会	7	◎村田桂子 森澤文王議員 中村茂弘議員 今井健児議員	○芝間教男議員 今井英昭議員 中島健男議員
消防委員	2	中村茂弘議員	中島健男議員

正副議長や常任委員会の委員長などは、立候補で決まっています。意欲的な役職選出でスムーズに決まっています。

役職を決める際に、私は発言し

①議会運営委員会は、議会に慣れた議員の中から選ぶのが望ましいこと。

②監査は「議長経験者から選ぶ」という慣例になっているが、それにとられることなく、2期目以上の議員から選ぶこと、(申し合わせでは他の常任委員会と同様、2年ごとの改選)

③どの議員も何らかの役職に就いた方がよい。

他に、佐久広域連合議会の議員、北佐久郡老人福祉施設組合議会の議員(佐久良荘運営の議会)、川西保健衛生施設組合議会の議員(し尿・ごみ処理施設・日赤病院運営に係る議会)や運営委員、土地開発公社理事・監事、白樺湖下水道組合議会の議員と監査委員、佐久市・北佐久環境施設組合議会の議員(新クリーンセンター建設に係る議会)など多数の議会があり、充て職や選出などで、町議員が選ばれています)



との立場を申し上げました。私も議会だよりの委員長になりました。もっとみなさんに分かりやすく、読んでいただける議会だよりめざして、少しずつですが改善できたらと考えています。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。

【町四役決まる】

町長 両角正芳氏 / 副町長 小平春幸氏 / 監査 関淳(あつし)氏 / 教育長 宮坂晃氏(任期:令和3年6月30日まで)

小平春幸氏: 役場職員 農林課・企画課・町づくり推進課・農林課・会計管理者・観光商工課長を歴任 56才。茂田井

関淳氏: 信越国税局・佐久税務署・大蔵省主計局予算会計事務管理室・公共事業第3係・石油公団・財務省などの他、成田国際空港東京事務所、国立印刷局、中部国際空港株式会社など民間にも勤務。65才。真蒲。

《お詫びと訂正》前号でご紹介した議員のごあいさつの追加
「今井清議員・・・妻・次女・犬2匹と暮らしている」に加えて、「町政の発展のため、全力で頑張ります。」を付け加えます。省略しすぎました。訂正します。



(野方)

絹雲が映った朝のノコマ。

カエルの歌が聞こえてくるよ

瑞穂の国

今週のパチリ

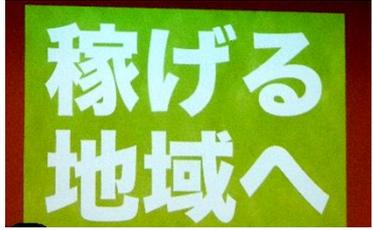
田んぼに水が入り、苗間の苗もすくすくと育っています。もうお田植えが終わった田もチラホラ。

西塩沢の一部の地域は、水が最後に回るといって「今年雨が少ないので、田んぼの水が思うように入らない」との心配の声も。「遅霜はもう勘弁！」野菜苗の植え付けも気がもめます。

信州たてしな観光協会 若手登用で元気に船

令和元年度総会 ホテルアンビエント蓼科で開催

芽吹きを迎えた白樺高原



メインスローガン

* しっかりした計画

新しく宮沢さん、渡辺さんというスタッフを迎えて事務局体制を強化した観光協会。里と山(高原支部・白樺湖支部)の観光協会が一つになり、町もそのための予算(昨年度1330万円統合補助金)をつけて発足した最初の総会です。しっかりした展望の持てる方針が示されたと思います。

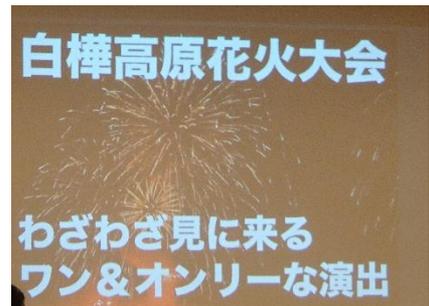
観光協会の中には、総務・誘客・企画委員会があり、それぞれの委員会で練られた様々な事業が方針として提案されました。

キーワードは「稼げる地域へ」。そのために「一人でも多く・一分でも長く滞在し・一円でも多く消費」してもらえる地域をつくることをめざして、「グリーンシーズンのスキー場の活用」や「e-bike導入(モーター付きスポーツサイクル)」で立科町の里から女神湖・白樺湖・茅野市へのサイクルコース創設などで、高原を自転車で走ってもらおうという構想や、地域振興事業として、8月11日続けている花火大会でも「わざわざ見に来るワン&オンリーな演出」や、女神湖も「枯れ木を整備し幻想的な景観へ」という言葉で表されているように明確なイメージとビジョンが示されており、着実な成果が期待できると感じました。

* 地域のイベント・事業を網羅して活かす・WEBでの宣伝

また、これまで各会社・ホテルなどや事業所で行われてきたテーブルマナー教室や商工会の多楽福まつり、中山道ウォーキングなどの既存の事業への協賛で地域のイベントにも責任を持ち、新たに「女神のくびれ」(幅が最短で56m)を活かす事業を新設するなど、「一人でも多く誘客」するために、イベントを網羅し活かす姿勢は期待が持てます。

そして、こうしたイベントを発信するうえで、これまでのテレビCMからネット上での宣伝にシフトし、より安価でより効果の高い宣伝・発信に努めるとしています。



わざわざ見に来る「他にない」花火大会をめざすという。

* 県の元気づくり支援金活用も

「疎水百選に選ばれた水路を活用したグリーンツーリズムの構築事業」は長野県の元気づくり支援金の活用するなど、町のお宝・歴史・伝統を生かした実現可能な取り組みとして紹介されています。冬のイベントスノーシューを活用した雪原ガイド養成など、白樺高原の冬の新たな魅力創出に期待が持てます。

観光協会に加盟していただける多くの事業所が加盟のメリットを感じられるように「稼げる地域へ」とそのものズバリの方針は、成果が求められただけに、真剣勝負の意気込みが伝わる総会でした。

* 6人もの酒造家

又サプライズとして、立科町でワイン醸造に携わるみなさんが6人も紹介され、それぞれのこだわりを発表。試飲コーナーもあり、たてしなの自慢の水を活かした取り組みに、「将来は明るい」と感じました。



酒造家・ワイナリー勢ぞろい

大沢酒造

御泉水を使った日本酒、1850mの国際スキー場の雪室で熟成させた氷雪貯蔵酒「蓼科山」を売り出し中。



中村さん

立科町はブドウ栽培に向いている。2016年東京から来てブドウ栽培を始め、白樺の絵をラベルに。立科のおいしい水が育んだ食材に合うワインをめざしている。民宿で体験事業も始めた。



山本さん…宇山でワイン用ブドウを栽培中。

市川さん…タテシナアップルでH16年より茂田井でシードルをメインに製品化。今年の2月より醸造免許を取得し、ワイナリーを開設する。9月にお披露目する予定。

井沢さん

ワイン造り。7年前から2町歩でブドウを育て3年前からワイン造りに取り組む。白2種、赤は3種類をブレンドして今月末から販売。



安孫子さん

アビーズワイン。1haに2000本のブドウ栽培。5月8日の凍害で50本ほどやられたが2020年春にリリース。立科産の豚・野菜の料理に合うワインをめざしている。



(写真が取れずにごめんなさい。)